

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
新型コロナウイルス感染症への対応について	群馬県立渋川青翠高等学校	全日制総合学科

ア 臨時休業中及び学校再開後の取組概要

① 教育課程

(教育課程編成)

- ・本校は7系列9コースを設置し、キャリア教育を重視した「自分で選ぶ・学ぶ・進む教育」を実践している。産業社会と人間、総学セミナー、総合研究と3年間を見通した独自のキャリア教育も展開しており、生徒の進路実現のためにも指導内容を精選して実施する予定である。

(授業展開)

- ・総合学科であるため授業変更は難しく、通常の時間割で展開する。分散登校時は、生徒を出席番号の奇数・偶数の2班編成で隔日登校させ、2週間にわたって同じ授業を2度実施する。通常登校時は、受講生30名以上の講座は特別教室で行い、3密を回避する。TTや教科での調整が可能であれば、講座を2つに分け2教室を使用して実施する。

(学習支援)

- ・5月初めに1ヶ月分の課題を郵送し、その中に4月までの課題提出用封筒を同封して返送させた。
- ・現段階ではClassiや教育関係サイトの紹介に留まるが、6月よりICT等を活用して学習活動をするための準備を始める。あわせて、各家庭のインターネット環境調査を行い、実態に応じた学習支援を進める。

(生徒とのつながり)

- ・担任・副担任が2週間に1度電話連絡を行い、学習状況の確認や悩みの相談に当たった。心配な生徒は登校させ、スクールカウンセラーに繋げたり、家庭訪問を行ったりして早期発見・解消に努めている。また、連絡網システム「オクレンジャー」を使用し、情報を共有している。

(探究活動の工夫)

- ・Google ClassroomとMeetの導入を学年で検討している。各家庭のインターネット環境の調査を行い、3学年から準備が整い次第6月中には運用を開始したい。分散登校期間中の個別指導やオンライン面接、オンラインプレゼンテーションなども想定した就職指導や進学指導に活用する予定である。

② 教員の指導力向上

- ・臨時休業中に一学期間の教材研究を行うとともに、年間指導計画を見直す中で授業内容の精選に取り組みさせた。また、在宅勤務時間を有効活用させ、スキルアップのための検定や資格取得のための勉強に取り組みさせた。

③ 組織マネジメント

- ・国や県教育委員会の動向に注意しながら、状況が変化する毎に校務運営委員会を設け、現状確認と今後の対応について検討し、職員会議で全職員に周知した。また期限を設けて、分掌毎に学校再開に向けての準備を進めさせ、進捗状況を確認している。

④ 施設設備

- ・保健環境部を中心にコロナ対策を検討し、学校医・学校薬剤師から助言を得て、消毒用アルコールの設置や自販機・購買箇所待機マークを設置した。職員室、事務室には対面となる机の間に透明ビニールの衝立を設置し、事務室受付箇所にも透明ビニールを設置した。

⑤ その他

- ・中間考査は中止とし、1学期の定期考査は期末考査のみとする。家庭学習用の課題を評価する。夏季休業は8月5～25日とし、冬季休業も2日短くした。非常勤講師の任用が4週間延長できることとなったため、授業確保に繋げたい。

イ 今後の課題

- ・通常登校となった場合、「新しい生活様式」に基づいて生徒間の距離を1m離すことが難しい。
- ・エアコンのある教室は限られており、暑い時期における学習環境の整備が難しい。また、換気のために窓の開放を指導する一方で、生徒の熱中症防止をどのように指導するか課題である。
- ・資格取得の実習に生徒を出すことが難しく、施設や行政機関との連絡調整が課題である。